

5歳児10月

ねらい・内容

- 友達と共通のめあてに向かって、互いに考えを出し合い受け入れ合いながら遊びを進めることを楽しむ。
 - ・自分の力を発揮し、満足感を味わう。
 - ・簡単な役割を自分なりに責任をもって行う喜びを感じる。
 - ・思いきり体を動かす心地よさを十分に味わう。
 - ・思ったことや考えたことを相手にわかるように伝える。
 - ・年中児の気持ちを受けとめ、優しく接したり分かりやすく教えたりする。
- 自然物を使った遊びを楽しむ中で、季節の変化に気付く。
 - ・秋の空や雲の美しさに気付いたり木々の様子に気付いたりする。
 - ・木の実や草花などを使って、遊びに必要なものを作って遊んだりいろいろな遊びに取り入れたりして工夫することを楽しむ。
 - ・経験した事や感動した事をいろいろな方法で表現する。

主な子どもの姿

<生活>

- 運動会に向けて個々のめあてを持ち、頑張ろうとする姿がある。
- 当番活動にも慣れ、進んで仕事をしたり一生懸命に関わったりする姿が見られる。
- 遊具・用具の準備・片づけなど友達と協力してする。
- 手洗い・うがいなどルーズになっている子もいる。

<遊び・人との関わり>

- 運動遊び・リズム遊びにより興味を示し、自分なりの目的をもって何度も挑戦し達成感や満足感を味わったことで、自信をもって遊びを進める姿が見られる。
- 友達の行動に関心を示し、今まで気付かなかった友達の良さに気付いたり、自分を認められることで自信を持ったりする姿が見られる。
- リレー・ドッジボール・鬼ごっこなどルールのある遊びを好み、友達と遊び方を考えたり工夫したりしながら楽しんでいる。ルールを共有することを楽しむ一方で、自分の都合のいいようにルールを変えるためにトラブルになる姿も見られる。
- 個々のイメージを出したり、目的意識をもって取り組んだりするようになる。
- 遊びの目的に応じて自分たちで必要なものを準備したり作ったりして取り入れている。
- 友達と自然物を使っての遊びを楽しんだり、土山の周りでままごと遊びを楽しんだりしている。

環境構成と教師の援助

環境構成

<友達と遊ぶ中で思いや考えを伝え合うために>

- 運動会という共通の経験をもとに、異年齢で一緒に遊べるような場の設定や時間を保障していく。
- 子どもと共に、運動会で使った遊具や用具を自由に使えるように置いておく。
- 昨年経験したボール遊びなどができるようにいろいろなボールやライン引きなど置いておく。
- 同じ目的を持った子ども達が集まり、一緒に遊びを進めていけるような時間や場所を保障し遊びに必要な物を一緒に用意していく。

<自然物などの身近な素材を使って遊ぶために>

- 園外保育で拾ったドングリ・木の枝・落ち葉などを使って、友達といろいろな遊びを考えたり、試したり工夫したりして遊ぶことができるように準備する。
- 木の葉・木の実・草の実・花など遊びたい時にすぐ使えるように準備しておく。分類したり名前を調べたりして見合えるように置いておく。
- 見たこと・感じたことを自分なりに表現する機会をつくる。(運動会・動物の絵など)

教師の援助

<友達と遊ぶ中で思いや考えを伝え合うために>

- 一人一人の取り組みの様子を具体的に認め、友達の良さが周りの子ども達に伝わるようにする。子ども同士が認め合っている姿を逃さず受けとめ、自信や繋がりが持てるようにする。
- 体を動かしたくなるような環境や遊びのきっかけをつくったり、ルールや場の使い方を確認したりして自分たちで遊びが進められるようにする。
- チームで対抗して楽しめるドッジボールや新たな鬼ごっこなどを提示したり、大きなダンボール箱や木片などを用意したりして、自分達で新しい遊びを展開できるようにする。
- 互いの思いを十分に出し合ったり、時には全体の事として取り上げて話し合ったりして問題を解決し、みんなが納得して遊びが続けられるように支える。
- 年中児の行動に目が向き、年長児としての自覚や思いやりの気持ちが持てるように配慮する。
- 汗の始末・休息・うがい・手洗いをする事の大切さを知らせ、進んでできるようにする。

<自然物などの身近な素材を使って遊ぶために>

- 自分でいろいろ工夫したり友達から刺激を受けたりしながらイメージしたことが実現できていくように、相談にのったり、様子を見ながら材料や用具を用意したりする。

10月	5歳児	準備物	教師の願い	
行事	運動会(4日)	遠足(20日)	身体計測・保健指導(21日) 国公幼研究会(28日) 誕生会・希望懇談(30日)	
あそびと環境構成	室内	自然物を使った制作(こま・ネックレス・動物・ドングリコリントなど) ドングリ・ドングリの殻・ドングリの穴あけ器・千枚通し・マジック・ボンド・リボン・各種ひも		
	室外	園庭や園外で木の実や落ち葉を集める ドングリ拾い 園外保育 岡山神社 幼稚園の近くの山		
	友達と思いを出し合って遊びを進めるように 飛び箱・竹馬・はしご渡りに挑戦する。 チームに分かれて園庭でリレーをする 運動会の再現遊び	木工遊び 木片(大・小)・かなづち・釘 釘抜き・ボンド サンドペーパー	福山市立動物園(遠足) 大型の段ボール箱を使って遊びを工夫する。 段ボール・段ボールカッター・キャスター など	
	自然物を使ってごちそう作り ままごと道具・タライに水を入れておく 千日紅・メランポジウム・フウセンカズラ・トレニアなどの草花	秋の自然に触れて遊べるように 砂場で樋遊び・砂山を掘ったり、水を流したり スコップ・砂場道具・タライ・樋	縄跳び 長縄・短縄	
	園内で虫見つけ (バッタ・カマキリ・コオロギ・トンボ) 網・虫かご	ルールのある遊びを友達と楽しむ 氷鬼・木の中のリス ドッジボール いろいろな大きさのボール ライン引き	助け鬼	
保育資料	<歌・手遊び・リズム遊び> ・とびきりげんきな運動会 ・青い空に絵を描こう ・やきいもグーチーパー ・とりのように	<絵本> ・大きな大きなおいも ・森のレストラン ・おいしい木の実をどうぞ	<集団遊び> ・ドッジボール ・リレー ・木の中のりす ・氷鬼 ・助け鬼	<飼育栽培> ・野菜(さつまいも) <絵画制作> 運動会の絵 動物園の絵 自然物を使ったの制作

月のねらい
 ○友達と共通のめあてに向かって互いに考えを出し合い受け入れ合いながら遊びを進めることを楽しむ。
 ○自然物を使った遊びを楽しむ中で、季節の変化に気付く。

先週の子どもの姿からの願い

・友達と遊び方を考えたり確認したりしながら、ルールのある遊びを楽しむ姿が見られている。また、昨年していた転がしドッジから新たに始まった投げドッジボール遊びでは、教師と一緒に遊びに参加しながら子ども達と一緒にルールを考え、遊びを進めていきたい。投力の個人差もあるので的当てをしだして遊びの中でしっかり投げの力をつけていけるようにする。

・秋の自然物や素材を使って自分なりにいろいろ工夫して作ったり飾ったりすることを楽しんでいる。また、友達が作っている物に興味を持ち、「私もやってみよう」と刺激を受けて作り出す姿も見られている。また、自然物を使ってままごと遊びをする中で自分のイメージを出し、それを友達と共有しながら楽しんでいる。このように一人一人が自己充実をし、友達と意思を出し合いながら協力して作る遊びの楽しさを感じられるような環境の工夫をしていきたい。

ねらい	①自分の思いや考えを伝えあいながら友達との遊びを楽しむ。 ②秋の自然物を使った遊びに取り入れて楽しむ。	内容	○友達と一緒にルールや作戦を考えて遊ぶ楽しさを味わう。 ○相手の気持ちに気づいたり、思った事や考えたことを相手にわかるように話す。 ○自然物を使って、工夫しながら作ったり飾ったりすることを楽しむ。
-----	--	----	--

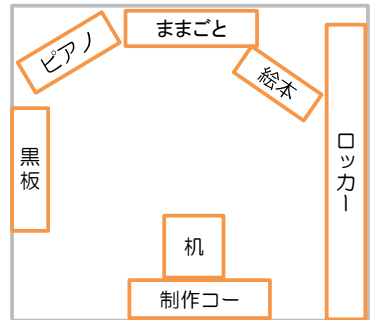
一斉保育	26日(月)	27日(火)	28日(水)	29日(木)	30日(金)
	○ドングリ転がしゲームをしよう。 ・自然物を使って遊ぶゲームを知り、友達と一緒に楽しむ。	○集団遊び ドッジボール ・好きな遊びの中で自分達で考えたルールを確かめて遊ぶ。	○国幼研究大会 10:40 降園	・好きな遊びの中で自分達で考えたルールを確かめて遊ぶ。 ・遊びながら気付いたり困ったりした事を出し合ったりルールを作り変えていく。	

次の日に繋がる援助	<秘密基地ごっこ> ・先週、園いしが掘れるショベルを使っての砂山の遊びが広がり、山の両側から穴を掘って共通しようというイメージを持って進める姿が見られた。しかし、まだ道具の扱いに慣れていないので、教師と一緒に掘りながら道具の使い方や掘り方のコツなどを遊びながら知らせていく。 ・ドッジボール ・同じようなメンバーが集まって、ドッジボールを進めている。その中でチームの友達と作戦を考えて遊ぶ様子が見られている。今の遊び方に慣れてきているが、遊びが少しマンネリになっていると感じる。違うルールを取り入れたいという子もいるので、新たにルールを作って遊べるように明日クラス全体で活動し繋げる。 <自然物の遊び> ・イメージが実現できる自然物の補充・提示、ボンドの扱い方を見ていく。	<秘密基地ごっこ> ・友達と「みんなが入れる穴を作ろう」と、イメージを共有して進めている。掘った穴を繋げて大きな基地を作りたいというイメージが実現できるような見守る。 <ドッジボール> ・「バスの多くて面白くない。」「好きな人にばかりバスしている。」などの不満の声が出たので、みんなで話し合ったり新しいルールが出来た。明日はそのルールを確かめながら声を掛け合ったり進められるように見守ったり、一緒にドッジに参加していく。 <自然物の遊び> ・自然物中心の素材や千日紅やティオウカイザクを置いておく。イメージがより豊かに広がるようにする。
-----------	---	---

週の反省

*歌*手遊び*リズム*
 ・青い空に絵を描こう
 ・やきいもグーチーパー
 ・とりのように

*絵本*ペープサート*パネルシアター*
 ・おおきなおおきなおいも
 ・森のレストラン
 ・おいしい木の実をどうぞ



○自然物を使って工夫したり作ったり飾ったりすることを楽しむ。

★ドングリごま・やじろべえ・ドングリ迷路・アクセサリー・リースなど作った物を飾っておいたり、絵本を見て自分の作りたいものを作ったりできるようにしておく。
 ★制作に必要な用具や道具を用意する。ドングリの穴あけ器などは安全に使えるよう、初めは教師と一緒に使うようにしたり、場所を指定したりする。また、遊び場を廊下などに設置し、周りの友達の刺激になるようにする。

ドングリの穴あけ器・接着剤・爪楊枝・竹ひご・水引・テグス・布・段ボール・段ボールカッター・毛糸・様々な材質の紙など

★子ども達が作ったものや子どもの発想から生まれたものを掲示し、子ども同士で見たり、遊んだりできるようにコーナーを設定する。

◎友達している様子(工夫・気付き・発想など)を「○○ちゃんはこうやって作ったみたいだよ」などと伝え関心を向けられ

○相手の気持ちに気づいたり、思いを聞き入れたり伝えたりしながら遊びを進めていく。

★友達と共通のイメージや目的を持ちやすいような素材や用具を部屋に置いておく。

大きな段ボール箱・長細い段ボール箱・ゲーム遊びや今楽しんでいる宝探しの内容
 が出てくるような絵本 など

◎友達と意思を出し合ったり、イメージを広げたりして楽しんでいる姿を教師が認め、受けとめていく。

◎教師も時には子ども達の仲間になり、子どもの遊びの世界で遊びながら子どものイメージに共感したり刺激したりして、子どもの遊びのイメージがより広がったりつな

○友だちと考えを出し合いながらルールのある遊びを進めていく。

★友だちと誘い合いながら、ルールのある遊びを始められるように必要な用具を決まった場所に置いておくようにする。(氷鬼・ドッジボール・ライン引き 他)
 ★園庭でのそれぞれの遊びが十分たのしめるように場を考えながら遊べるようにする。

◎自分たちで遊びを進めていく中で、遊びのイメージや考えの違いによるトラブルは自分達で解決しようとする姿を大切に、見守ったりヒントや考え方など援助していく。

保育指導案（5歳児）

○子どもの姿と教師の願い

進級児30名新入児4名の計34名のクラスである。

好奇心が旺盛で、「面白そうだ」と思ったものにはすぐ自分流に関わっていく子どもが多い。その勢いに刺激されて周りの子どもも「やってみよう」と遊び始めている。友達の姿を見て真似たり、「これおもしろそう！僕にもやらせて」と声をかけたりする姿があり、いろいろな遊びの中で友達と自然な形で関わりながら遊びを進める姿が見られている。

一方、遊びの中でルールが守れなかったり、自分の考えのみで遊びを進めたり、思いをうまく伝えられなかったりなどでトラブルが多く見られた。教師はその都度互いの思いを受けとめながら、自分の思いや考えを相手に伝えることや、互いに気持ちよく友達と遊ぶためにはどうしたらよいかなどを一緒に考えていった。友達との関わり方を自分で気づき折り合いをつけたり、自分達で解決したりできるように援助していくことで、少しずつ自分達で解決する姿が見られてきている。

クラスの中には自分のしたいことを言葉で伝えたり、友達の思いに気づき受けとめたりすることに支援が必要な子どもがいる。友達と「〇〇しよう」とイメージを共有したり、遊びの中で思いを出し合ったりして一緒に遊びを進めることができにくい姿が見られた。そこでまず、教師との信頼関係を築きながら、安定して園生活を送れるようにすることを大切にしてきた。そして、一人一人の子どもの興味のあることは何かを探り、好きな遊びを楽しみながら友達と繋がっていくように仲立ちをしてきた。その中で、自分からやりたい遊びを見つけ友達との関わりを楽しむ姿が見られるようになってきている。

2学期が始まり、運動会に向けて自分なりのめあてとして、1学期から取り組んでいた竹馬や跳び箱などができるようになりたいという意欲を持って繰り返し取り組む姿が見られた。その中で「できた」という喜びや達成感を味わったことで、「苦手なことにもチャレンジしよう」「諦めずに最後までやりきろう」とする姿が見られるようになり自信に繋がったことを感じる。リレーや「どんどん積もう」などのチーム競技では仲間と力を合わせて取り組む経験をし、作戦を考え合いながら繰り返し楽しんだ。運動会が終わってからの再現遊びでも友達と一緒にチームに分かれて楽しむ姿が見られた。その中に4歳児も加わることで、リレーの仕方を教えたり太鼓のリズムのとり方を見せたりしながら、異年齢で楽しむ姿も見られている。

秋の心地良い気候の中で鬼ごっこや転がしドッジから移行をした投げドッジを楽しむ姿が見られている。また、砂・土を使ったり、自然物(千日紅・メランポジウム・サルビア など)を使ってままごと遊びを楽しんだりしている。秋の自然物(ドングリ・松ぼっくり・唐辛子 など)を使って、リースやのれんなど造形的な遊びを楽しむ姿も見られている。自分のイメージを表現することを楽しんだり友達の遊び方を自分でも取り入れたりして、互いに良さを認め合う雰囲気が出ていくようにしたい。

鬼ごっこやドッジボールなどのルールのある遊びでは、自分達でルールを考え遊びを進める姿が見られている。しかし、ルールが自分本位になったり、意見を強く主張する子の意見に流されたりしてトラブルになることも多い。互いの思いを出し合うが、折り合いをつけて進めることができにくい姿も見られるので、様子を見ながら仲立ちし、自分達で解決策を導き出せるように援助していきたい。友達と一緒に目的に向かって遊ぶ中で考えを出し合ったり気持ちを合わせたりし、「友達の意見も取り入れたらもっと楽しくなった」という経験をしてほしい。そして、互いの良さを認め合いながら、友達と協力して遊びを進める楽しさを感じてほしいと考える。

ね
ら
い

○自分の思いや考えを伝え合いながら友達との遊びを楽しむ
○秋の自然物を遊びに取り入れて楽しむ。

内容

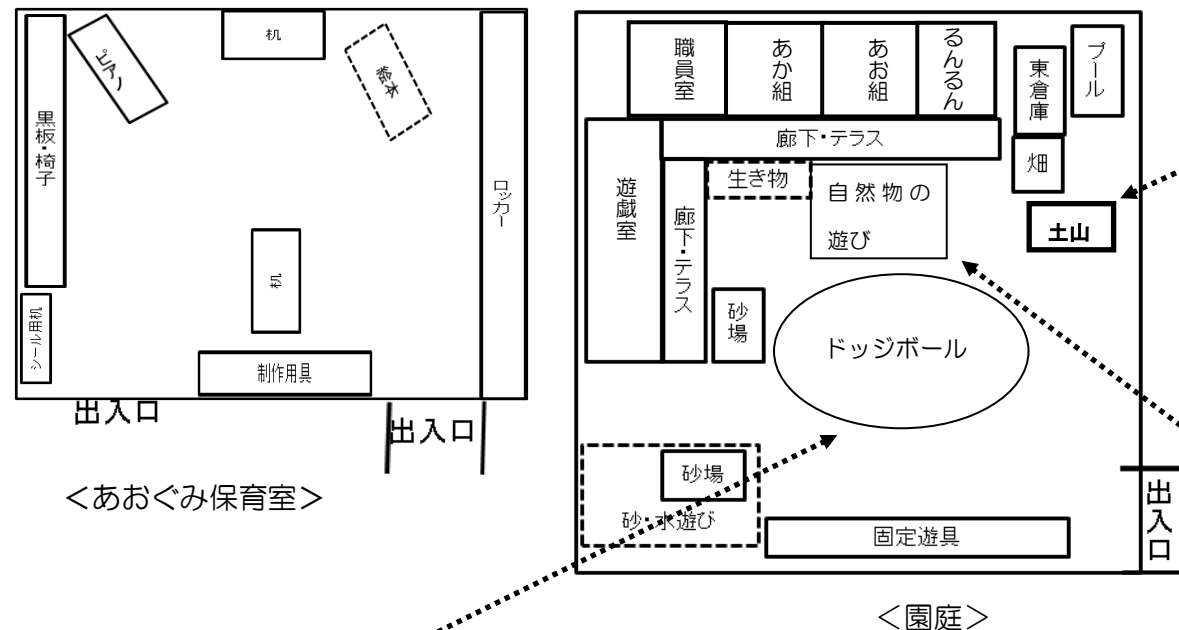
- ・友達と一緒にルールや遊び方を考えて遊ぶ楽しさを味わう。
- ・相手の気持ちに気付いたり、思った事や考えたりしたことを相手にわかるように話す。
- ・自然物を使って、工夫しながら作ったり飾ったりすることを楽しむ。

★環境構成

◎教師の援助

【子どもの姿】

*振り返りからの援助



《土山 ままごと》

桶を繋いで水を流し川や島に見立てて遊んだり、先日の遠足で行った公園の遊具をイメージして大きな穴を掘り、その中に入って遊んだり、土山の両側から体が抜けられるような大きな穴を掘り、友達と潜って「あれ？ここが引っかかるわ。もうちょっと横を掘らんといけんわ。」と試したりしながら進める姿が見られる。一緒に遊んでいる友達と思いを伝えたり聞いたりしながら、イメージを膨らませたり共有したりして遊ぶ姿が見られる。
また、ままごとでは園庭に咲いている花や落ち葉などの自然物を使ってごちそう作りをし、「パーティーしよう」と友達とイメージを共有して遊びを進めている。

- ★砂場の用具を土山の近くに移動し、必要な物をすぐ使えるように置いておくことで、遊びが続くようにする。
- ★園庭の千日紅の花などを遊びに使い無くなってしまったが、地域の方が持ってきてくださったたり、子ども達が「これも使えるかな」と持ってきたりしているので、使って遊べるように子どもと準備する。
- ◎用具の移動をしたことで片付け方が分かりにくい子もいるので、教師と一緒にしながらあった場所に片付けることを意識づける。
- ◎土山が固くてなかなか掘れないため、鉄のミニショベルを用意したので、安全に使えるように見守っていく。
- *大きな基地を作りたいというイメージが実現できるように掘った穴を広げたり、繋いだりする様子を見守る。子どもの発想を繋げたり、時には教師がアイデアを出したりして遊びが深まるように援助する。
- また、ままごとでは千日紅やドングリなどの自然物を遊びたいイメージに合わせて一緒に準備していく。

《ドッジボール》

年中児の時に遊んでいた丸ドッジボールを友達と誘い合って楽しむ姿が見られる。友達が楽しんでいる姿を見て加わったり、友達や教師に誘われて加わったりしている。遊びを進める中で、自分達でラインを引いて場を作り角ドッジへと移行している。クラス全体でも取り入れ、遊びの中でルールと一緒に考えながら楽しんでいる。ボールの扱いやドッジボールの遊びに慣れている子もいれば、やり始めたばかりで遊び方がよく分からない子どももいた。昨日まではチームに分かれ、中の人全員にボールが当たったら勝ちというルールで遊んでいたが、その遊び方に慣れてマンネリになり、違うルールを取り入れたいと言う子も出てきたので、全体で相談して新たなルールを決めて、クラスの活動でも取り入れた。段階を追ってルールを取り入れることで、理解が難しい子も遊びに入ってきたり子どもたち同士で声をかけ合ったりと遊びが進めやすくなっている。
コートを描く時に、大きすぎた為ボールが届かない経験をし、遊ぶ人数に合わせてコートを描くことに気付いた。「パスばかりで面白くない」と、ボールの取り合いになり揉める事もあるので、そんな時にはどうしたら良いかを全体で話し合い、みんなが納得できるようなルールを考え合っ進めている。

- ★ライン引きを置いておき、自分達でラインを描いて遊びが始められるようにする。
- ★子ども達がラインを描く様子を見守りながら、他の遊びの邪魔にならないような場所に描けるよう気付かせる。
- ◎子ども達が遊びながら気付きを出し合い考え合っルールを作ったり、確かめ合ったりできるように教師も様子を見守り、話し合いがうまく進まないようなら仲立ちをしたり、話を整理したりして子ども達の話し合いが進められていくよう援助していく。
- ◎ルールの理解ができにくい子や、やってみたい気持ちはあるが自分からはなかなか遊びに入りにくい子もいるので、教師も一緒に遊びに参加しながら、友達と関わって遊んだりルールがわかって遊んだりできるようにする。
- *みんなで話し合っ新しいルールが出来たので、子ども達で声をかけ合っルールを守ったり教え合ったりしながら、自分達で遊びを進めていけるように見守っていく。友達同士で声をかけているが、相手に伝わらないこともあるので、その時には教師が間に入って互いの気持ちや状況が伝わるように援助する。



《自然物を取り入れた遊び》



近くの神社に園外保育に行き、ドングリや松ぼっくり・モミジの葉っぱ・イチョウの葉っぱなどを見つけたり集めたりした。その経験から自然物に興味関心を持ち、図鑑でドングリの種類を調べて表示する姿が見られた。また、家から見つけて持って来たいろいろな実も使って、自然物のアクセサリや飾りなど造形遊びを楽しんでいる。友達同士で「見て！かわいい！」「この実、どこにあった？私も作りたいな」「ちょっとここを持って」など話をしながら楽しむ姿がある。

- ★自然物や素材などを使いやすく分類して置く。テーブルの上に見えやすいように置いておくが、無くなったら自分で取りに行き、引き続き遊びが楽しめるよう動線を考えて置いておく。
- ★青組の前の園庭やテラスに場を設定し、みんなに見えやすいような環境にする。また作ったものをすぐに飾れるようにし、周りの友達も関心が向くように工夫する。
- *自然物を中心に千日紅やテイオウカイザクなどの新たな材料を置いておき、興味を持って遊べるようにする。また、友達の作っている姿や作品を見て取り入れて遊ぶ姿を認め、「ここをよく考えていて素敵だと思うよ」などと声をかけ「また違うのも作ってみよう」という気持ちが持てるようにしていく。